

学生向け

# SUSTAINABILITY GUIDELINES

イベント開催のための  
ー サステナビリティガイドライン ー



上智学院サステナビリティ推進本部

# はじめに



サステナビリティ推進に向けた取り組みがますます加速している近年、環境・社会・経済における持続可能性が様々な領域で求められています。なかでも、多くの人やモノの移動が伴い、資源が大量消費されるイベントや行事の運営においては、持続可能性の観点は非常に重要視されています。

例えば、オリンピックでは2012年のロンドン、2021年の東京開催でスクラップ&ビルドではない持続可能な運営方式が注目を集めました。その基盤となった“イベント運営における社会的責任と環境マネジメントシステムに関する要求を定めた国際規格”「ISO 20121」は、イベント産業のサステナビリティを支えるマネジメントシステムとして、国際的な大規模イベントから地方で行われるお祭りまで、広く浸透しています。今やイベントの主催者がサステナビリティに向き合うことは“あたりまえ”の時代になりつつあります。

このような流れを受け、本学では学生生活における持続可能な会議・イベントなどの運営に取り組んでいくために、わかりやすい指針となるガイドラインを作成しました。本学最大の構成員である学生の皆さんを対象としており、学生生活や学生団体での活動をより持続可能なものへ変えていくことを目標にしています。

ガイドラインの内容は、2019年に東京都で策定された「TOKYO MICE(※1) サステナビリティガイドライン」を参考にし、持続可能なイベント運用と向き合うための方針をチェックリストにまとめて掲載しています。

皆さんの小さな行動の変化が、大学や社会全体に大きなインパクトを与えます。他者のため、他者とともにより良い社会や日常を皆さんでつくっていきましょう。

※1)MICEとは…Meeting(企業等の会議)、Incentive Travel(企業等の行う報奨・研修旅行)、Convention(国際機関・団体、学会等が行う国際会議)、Exhibition/Event(展示会・見本市、イベント)の略

## 上智学院サステナビリティ推進本部

2021年の7月より設立。SDGsやエイズ会が掲げるUAPs(4つの普遍的方向付け)を活かし、教職員と学生で協働しながら、サステナビリティに関する研究・教育・課外活動団体・社会貢献活動の連携・協働や情報発信を日々行っている。



## ガイドラインの 目指すもの

- サステナビリティにおいて求められる観点や取り組みを把握する
- 自組織の持続可能性のレベルを確認する
- 運営メンバーの持続可能性に関する意識改革を行う
- サステナブルな運営・活動のための取り組みを実践する
- 上智学院内のサステナビリティ推進に貢献し、社会に対するインパクトを拡大する



## ガイドライン概要

このガイドラインは、【組織づくり】【イベント前】【イベント当日】【イベント後】の4つのパートで構成されています。

イベントや催事を行う際の進捗段階に合わせて項目をチェックし、サステナブルな運営について考えてみましょう！

- カテゴリー番号
- チェックリスト

- カテゴリー目標

0-1



皆が意見を発言しやすい環境を作ろう

- ◎自分の価値観を押し付けない
- ◎一人で抱え込まず、誰かに相談できる環境を作る

- ◎持続可能な運営に向けた指針を記載
- ◆具体的な取り組み例を記載

イベントを企画する前に…

0.

## 組織づくり

サステナビリティの実現に向けて、団体・チームのあり方を見直そう

0-1



皆が意見を発言しやすい環境を作ろう

- ◎自分の価値観を押し付けない
- ◎一人で抱え込まず、誰かに相談できる環境を作る

0-2



団体やチーム内で性別による決めごとが行われていないか考えよう

- ◎「男」「女」を主語にして話すのをやめる
- ◎性別で役割分担を行わないようにする

0-3



SDGsやサステナビリティについて、団体メンバー間で共通理解を図ろう

- ◎ミーティングや勉強会の機会を設ける
- ◎サステナブルな活動を継続的に進めていくためのマニュアルを作成する

0-4



持続可能な社会づくりへ貢献するための団体のポリシーや活動目的を持とう

- ◎運営の持続可能性を定期的に見直せるような教育体制をつくる
- ◎サステナビリティを促進する部署や担当を設ける

0-5



## ユニバーサルマナーを参考にしよう

◎ユニバーサルマナー検定を受験する

0-6



## 大学や他の学生団体、企業と協働して活動の幅を広げよう

◎他団体や企業の取り組みを調べ、企画書を作成して依頼してみる

◆サステナビリティ推進本部では、学生団体との共催企画や企業とのコラボ企画を行うための連携・協働を支援します

## MEMO

---

---

---

---

---

---

---

# 1.

## イベント前

誰一人取り残さないイベント開催のために準備をしよう

### 1-1



### 環境保全とダイバーシティ&インクルージョンに配慮し、交通手段や開催場所を選ぼう

- ◎公共交通機関や徒歩で移動可能な場所を選ぶ
- ◎エレベーターの有無や会場の導線を確認する
- ◎移動にサポートが必要な方がいるかどうか事前に確認する

### 1-2



### 情報を発信する際は電子化を推進しよう

- ◎QRコード・ダウンロード形式の資料にする

### 1-3



### ポスター等の情報宣伝はユニバーサルデザインにしよう

- ◎日本語版と英語版を作成する  
(日英以外の話者が多数参加することが見込まれる場合はその言語でも作成するのが望ましい)
- ◎文字の大きさやフォントに配慮する
- ◎色覚特性のある方にも見やすいデザインを作成する
- ◆字体はUDフォントの利用が推奨されている
- ◆スマートフォンの色彩確認アプリや東京都のガイドラインを参考にする

#### 参考!

「東京都カラーユニバーサルデザインガイドライン」より

- 1.色相に配慮する
- 2.文字に色をつけるときは背景色との組み合わせに配慮する
- 3.パステルカラーの組み合わせは避ける
- 4.色の明度や彩度の差を利用する



×

○

## 1-4



### イベントで使用するものは 環境配慮型の製品やユニバーサルデザイン のものを選択しよう

- ◎名札ストラップやノベルティは、再生材やリサイクル性に配慮したものを使う
- ◎何度も利用する場合は、詰め替え式のものを買う
- ◎使用する商品を選択する前に、産地や製造工程を調べてみる
- ◎会場設営のためのテントや机は、サブスクリプション制度やレンタルを活用する
- ◎サステナブルな景品やノベルティを調べる  
例)紙パック飲料水、フェアトレード商品、  
環境にやさしいペーパーボールペン等



## 1-5



### フードロス削減のため、食品は計画して 調達しよう

- ◎必要量を事前に見積もり、余った場合の対策を考えておく
- ◎フードロス削減の取り組みを行っているレストラン・  
ケータリング・キッチンカーなどの事業者を優先的に選ぶ

## 1-6



### 食品提供の際はアレルギーに配慮しよう

- ◎アレルギーに関する事前アンケートやアレルギー表示を行う

1-7



ハラルやベジタリアンなど、食に関する制限に配慮し、使用食材の見直しや調理方法の表示を行おう

◆上智のハラル食堂では、テイクアウト利用が可能

1-8



イベント参加者にも持続可能性を意識した行動を呼びかけよう

◎環境に配慮した行動をするために、事前に活動上のルールや注意喚起を共有しておく

1-9



宿泊施設を利用する際は、性の多様性に配慮した部屋割りを行おう

◎事前にアンケート調査をし、必要に応じて個別対応をする  
◆上智大学HPの『性の多様性に対する配慮・対応について』を参考にする

1-10



長時間のイベントの際は宗教上の多様性を担保するため、参加者に応じて祈祷室やスペースの確保が可能か事前に確認しよう



## 2.

# イベント当日

活動の運営者と参加者でサステナビリティを実現しよう

### 2-1



熱中症対策など参加者の体調管理を行おう

- ◎定期的に給水の時間を設定する
- ◎休憩スペースをつくる
- ◎受動喫煙をしないよう、させないようにする

### 2-2



利用していない部屋や場所の  
空調・照明は消そう

- ◎環境省の推奨に基づき、設定温度を冷房は28℃、暖房は20℃を目安にする

### 2-3



活動中の資材の利用においては  
環境への負荷が低いものを選択しよう

- ◎利用する看板やパネルをリサイクルできる段ボール素材やハニカムボードにする

### 2-4



自動車の停車・駐車中は  
アイドリングストップをしよう

2-5



## 会場ではマイボトルの使用を推進しよう

- ◎上智のウォーターサーバーを積極的に活用する
- ◆上智学内のPRONTOでは、マイボトルの持参によって対象商品に10円割引が適用される

2-6



## キッチンカーなどではマイ容器の利用を推進しよう

- ◎事前にマイ容器持参を呼び掛ける
- ◎容器のシェアリングサービスを利用する

2-7



## 大人数に向けたイベントを実施する際は多言語対応に努めよう

- ◎案内板は日本語や英語またはアイコンで用意する
- ◎障がい者の方に向けたコミュニケーションの取り方を確認しておく
- ◆内閣府の『障害のある人に対する情報保障のためのガイドライン』を参考にする

2-8



## イベントで使用する文言は性別、年齢、宗教等の観点から誰かを排除することのない表現をしよう

- ◆使用する表現は「マイクロアグレッション」の概念を参考にする  
※マイクロアグレッション…相手を傷つけたり否定したりする意図がないのに、無意識のうちに相手を傷つけてしまう差別のこと

# 3.

## イベント後

サステナブルな運営を継続し、次の活動につなげよう

### 3-1



#### 会場に出たごみは分別して回収しよう

- ◎ゴミ入れを複数用意し、その分類を具体的に明記する
- ◎まだ利用できるもの、資源になるものはリサイクルする

### 3-2



#### 持続可能性の観点から、運営についてよかったことや事前に確認すべきだったことなどの反省を行おう

- ◎SDGsのゴールや本ガイドラインの【イベント前】【イベント当日】の欄をみて達成できた否かを確認する

### 3-3



#### 自分の団体の取り組みをSNSやホームページで発信しよう

- ◆サステナビリティ推進本部では、様々な団体の持続可能な活動を取り上げ、SNSやサイトで発信中！

発行年月日 2023年12月8日  
発行元 上智学院サステナビリティ推進本部

お問い合わせ先  
Email: [sustainability-co@sophia.ac.jp](mailto:sustainability-co@sophia.ac.jp)  
上智大学 SDGs&Sustainability サイト▶▶





**SOPHIA**  
**SUSTAINABILITY**



この冊子是用紙としてヨシ紙を利用しています。  
※ヨシ紙は、非木材グリーン協会認定商品です。

